

# 令和2年度 こばとこども園 教育活動等に対する学校評価

令和3年2月24日

1 こども園の教育目標 …明るく素直な子

- ・思いやりのある子
- ・進んで運動や遊びに取り組む
- ・自分で考え、のびのび表現できる子

2 本年度の重点目標 …夢中になって遊ぶ子

- 満3歳 園生活(遊び)を楽しむ
- 年少 友だちと楽しく遊ぶ
- 年中 遊びに喜んで取り組む
- 年長 進んで活動に取り組み、最後までやり通す
- 年長 感じた事・考えた事を表現する

※評価点 4(十分に成果があった)・3(成果があった)・2(少し成果があった)・1(成果がなかった)

(No. 1)

評価対象	評価項目	評価点			自己評価 園としての反省と改善点	学校関係者評価委員 御意見
		H30年度	R1年度	R2年度		
1. 教育・保育の計画性	①園の教育理念・教育方針を理解している	3.1	3.1	3.2	90%が「理解している」と評価。コロナ禍ではあったものの、基本理念は堅持・共有できたと考える。課題としては、2号保育の在り方である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭の評価が高いので、この状態を継続していけば良いのではないのでしょうか。</li> <li>・②が3を切っている点は気になる。他は概ね良好。</li> <li>・小学校でも各職員が学校教育目標を意識において日々の授業等を行えるよう心を砕いています。週日案形式に「10の姿」を書き込む工夫は参考にしたい。</li> <li>・先生方には園の教育理念・教育方針を念頭に置き園児の保育に努めていただきたい。こばとこども園を選んで良かったと保護者さんに思っていただけではまずです。</li> <li>・今年度コロナ禍での新しい生活となり、戸惑いもある中、園のため、子どもたちのためとても良くやってくれていると思います。感謝しかありません。</li> <li>・一年を通して先生方子どもたちを次のステップへの導き方がすごく上手だな。と思いました。</li> <li>・年々評価点が上がっている。指導計画を全職員が立てていて向上心があると良かった。</li> <li>・資料拝見しました。グラフ化されていて大変分かりやすいと感じました。R2年度はコロナ禍の中、保育・指導大変な一年だったと思います。計画していたこと、取り組もうとしていたことが計画通りにできなかったという御苦労します。しかし前向きに取り組んでいる様子がうかがわれます。</li> </ul>
	②認定こども園教育・保育要領の理解に努めている	2.9	3.1	2.9	保育教諭のうち84%が「努めている」と評価。単に幼稚園の延長上になっていないか、認定こども園としてのあり方を園全体で研修する必要を感じている。	
	③園の教育目標や教育・保育要領を元に教育課程や指導計画を立てている	2.9	3.3	3.4	保育教諭のうち93%が「立てている」と評価。今後は新しい生活様式を配慮しながらの教育・保育のあり方も考慮したい。	
	④乳幼児の発達段階や実態などをベースに、歳児ごとの指導計画を考え作成している	2.9	3.2	3.6	保育教諭100%が「作成している」と評価。発達段階に応じ、要領に基づいて、学年間の差を考慮し、同一学年内で共有し作成できていると判断する。	
	⑤子どもの生活や動き・思いを大切にして環境構成を工夫している	3.1	3.5	3.6	保育教諭の100%が「工夫している」と評価。年長のクラス編成、配置については異論があった。また、特別支援への配慮も今後の課題である。	
	⑥幼児期の終わりまでに育てたい10の姿や小学校との接続を意識している	2.6	3	3.3	保育教諭のうち95%が「意識している」と評価。週日案に「10の姿」を記述するなど、形式を変更したことが奏功したようである。さらに意識化を図りたい。	
2. 保育の在り方・子どもへの対応	①朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないか確かめている	3.6	3.8	3.9	教諭・看護師の100%が「努めている」と評価。体とともに心の面も視野に置きたい。休み明けの体調確認は特に配慮したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の先生だけでなく、どの先生も子どもの名前と保護者をすぐ覚えてくれ、体調の変化も気にしてくれ助かっているようです。</li> <li>・①～④は皆さんの努力を評価したい。⑤全園児について理解工夫を全職員が努力するのは困難に思う。</li> <li>・コロナ禍で異年齢交流行事が制約されたことは、すぐにその影響が表面に出ないだけに心配される。特に年長児において、影響は大きいと推測される。しかし、今はやれることを精一杯やるしかないということもよくわかります。</li> <li>・コロナ禍で本当に苦労されていると思います。できることをできる範囲で取り組んでください。</li> <li>・①についてコロナ禍ということで園から風邪の症状であっても家で休んでくださいと何度も連絡がありました。働いている方は本当に大変な思いをしているなと思いましたが、今まででしたら少しくらいとか小さい風邪をひいて強くなるからと行かせてましたよね。しかし今年は違います。集合場所へ合流すると咳をしる子がとても気になりました。気にしない親は本当に気にしてません。先生も咳をしても気にしていない様子でしたが、毎日登園していました。難しいところですが、誰が悪いとかではなく、コロナ禍はとも判断が難しいですね。親も先生方も。</li> <li>・同じ学年同士で外で思いきり遊ばせている姿を見ると、子供同士のつながりや成長をととも感じた。</li> <li>・④⑤については本当に難しい対応を迫られたことと思われ。先が見えない。予測できないという状況。何もかも新しい対応を求められたことと思われ。</li> </ul>
	②一人ひとりの思いを大切に受け止め、個に応じた支援を心がけている	2.8	3.8	3.7	教諭・看護師の100%が「心がけている」と評価。様々な発達段階の個々に合った目標設定・言葉かけを今後も努めていきたい。	
	③遊びこめるような環境や時間への配慮をし、子どもの自主性・自発性を大切にしている	2.5	3.2	3.4	保育教諭のうち100%が「大切にしている」と評価。安全確保の観点から制約されることもあり、時間的な制約もある。今後の課題である。	
	④行事や活動を通して、子ども同士のかかわりや異年齢児との交流を大切にしている	2.6	3.2	3	異年齢との交流を大切に思いながらもコロナ禍で十分にはできなかった。新しい生活様式における交流の方策を考えていきたい。	
	⑤教職員全員が、全園児について理解していくように工夫や努力をしている	2.9	2.3	3	78%は「当てはまる」として情報共有、報・連・相の成果を挙げる一方、22%が情報共有の不徹底を挙げ「当てはまらない」と評価。今後の課題である。	

評価対象	評価項目	評価点			自己評価 園としての反省と改善点	学校関係者評価委員 御意見
		H30年度	R1年度	R2年度		
3. 教職員としての能力や良識・適正	①教職員としての話す力や聞く力の向上を意識している	3.1	3.2	3.2	全員が意識しているものの、特化した研修がないのが実情。個々の自己研鑽や意識改革などに頼っている部分もある。特設の職員研修も考えたい。	・先生の休みが、子どもにとって影響が大きいことと感じる。今まで通り意識してほしいと思います。 ・②は実際には難しい点があると思うが、皆さんの意識、対応が高く評価できる。③は自らの事であり評価点が4になってほしい。 ・時代的に様々な考え方を所持保護者さんが増えていると思います。的確な言葉選びや聞き取り能力が大事になってきますね。 ・①②③とてもよくやってくれていると思います。 ・先生方の子供を引きつける話し方は、参観のときに感心します。上手に子供たちをいい意味で操っていて参考になります。
	②子どもや、保護者との対応には、公平さやかかさないように平等に接している	3.6	3.7	3.8	全員が意識しているものの、タイミングや時間的余裕欠如から対応不足な場面があることと心配している。のりしろを意識した対応を心掛けさせたい。	・61について。日々忙しい中ですがこの仕事は皆さんのお一人お一人の人となり園児にストレートにあらわれるものです。職員皆さんの興味・関心あるものを楽しんで取り組んで欲しいと思います。
	③自らの健康に配慮し、爪が伸びていないか等、保育上での安全性にも気を付けている	3.4	3.6	3.7	全員意識している。保育教諭の健全な体は、本人にとどまらず園児への影響が大きい。このことを意識し、まずは健全な自己管理に心掛けさせたい。	・少しの成長でも感じ取っていただけ、子どもも褒められることでチャレンジ精神が芽生えているようです。 ・⑤の3.9は嬉しく思います。 ・こぼとこも園では、素敵な人柄に育てていただけの能力を持った先生が多いと思っています。一人で抱え込まずに助け合って子どもたちの成長を見守ってください。 ・今年がコロナということで遊戯室に全園児が集まることができなかったので、誕生会も保育室で数人でお祝いする形になりました。コロナが収まったら年少から年長まで舞台上一緒に上がる姿をまた見たいです。 ・⑤について。高い評価点があがっておりますね。改めて皆さんの熱い思いが伝わってきます。
	④教職員同士のコミュニケーションを円滑にし、片寄った人間関係を作らないようにしている	3.1	3.1	3.3	直接対面でのコミュニケーションは重要である。ただ、コロナ禍の中、またSNSなどでの繋がりもあり、全員が意識していくことが重要である。	
	⑤子どものささやかな成長を見取り、それを喜ぶことができる	3.7	3.8	3.9	「こども園に関わりたい」思いの一番がこれであり、職員の間で共通基盤であることが改めて確認できた。子どものやる気スイッチONに向けて努力したい。	
	⑥園の子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	3	3	3.3	ほぼ全員が「興味がある」としているものの、まだ十分ではないと意識している。「人間的な幅」は園児との関わり方にも影響する。心掛けさせたい。	
4. 保護者への対応	①子どもの様子や園情報は、直接話したり、電話・連絡帳等を使ったりして保護者に適切に伝える	3.4	3.6	3.7	全員が意識している。コロナ禍で個々での対応が増える傾向があった。お知らせ、バステル、連絡帳、電話など効果的な連携を模索したい。	・連絡帳の返信には園での様子を書いていただけるので助かっているようです。 ・保護者対応はなかなか難しい点があると思うだけに全般的によく努力されていると思います。 ・広報誌などで子供の写真など活用したいが、扱いは慎重にならざるをえない。ご苦労に共感します。 ・プライバシーの扱いなど、十分に気を付けていただきたいです。保護者さんとの距離感、人間関係も適切に対応してください。
	②保護者との会話は、正しい日本語・敬語で語りかけ、相手の話には謙虚に耳を傾けている	3	3.4	3.4	全員が意識している。が、十分に「耳を傾けて」いたかどうか心配している。保護者との連携を含め、研修を重ねたい。	・親としての意見となりますが、園での様子をお迎えの時、短い時間で伝えてくれていてとても助かります。言葉遣いもとても良いと思います。
	③園児や保護者の個人情報の管理については園の方針に従い、情報が流失しないようにしている	3.8	3.9	4	個人情報保護には園をあげて配慮している。顔写真、家族情報などを含め、年度末処理、卒園後の処理などにも十分に意識をさせている。	・園からの連絡等、バステルメールで済むので楽だと思います。コロナということで学年毎の運動会。意外に座るスペース、時間配分など待ち時間が少ないのでこれからもこの形が良いと思いました。 ・保護者の方々への対応も年々大変になってきていると思いますが、是非こぼとらしさを失わずに。先生方のパワーを子どもたちに注いであげてください。
	④保護者からの具体的な意見・要望には適切に対応し、上司に連絡・報告・相談をする	3.3	3.8	3.9	全職員が意識している。一人で判断せず主任や園長に伝えるなど、組織だった対応をさらに徹底したい。「愛育箱」の活用も広く広報したい。	
5. 地域の自然や社会との関わり	①園へ見学に来た人に、園の教育方針等を質問されても、きちんと答えることができる	2.8	2.8	3	「はい」は、75%にとどまった。こども園の「ランドデザイン」に集約された内容を全職員共通の認識にできるよう、研修していきたい。	・地域の社会との関わりは難しいと思います。 ・忙しい保護者さんへ、子育てに役立つ情報を提供できるように地域の事も知っておくといいたいです。力を貸して下さることも多いと思います。 ・地域の方との連携やコミュニケーションもしっかりとれていると感じました。
	②子どもの教育のために、利用したい地域の施設や機関、素材について理解している	2.5	2.5	3.6	「理解している」は半数であった。地域の理解は、その活用につながる。職員研修に特設したい。	・入園する前に家の前をこどもと散歩していたらこぼとこの先生と子どもたちがお散歩で通った事があります。「こんにちは」と挨拶してくれたのがとても印象的でした。この園に入ろうと思いました。 ・徒歩で通園している様子をよく見かけます。先生方はとても大変でしょうけれど、地域の方は微笑ましい様子として受け止めているのではないのでしょうか？先生方には負担過多ではと心配もします。
	③地域開放や子育て支援について、具体的な内容を理解している	2.3	2.5	2.7	「理解している」は半数であった。公民館など市などの連携を深め、保護者に情報提供できるようにしたい。	

評価対象	評価項目	評価点			自己評価 園としての反省と改善点	学校関係者評価委員 御意見
		H30年度	R1年度	R2年度		
6. 安心と安全	①ヒヤリハットの事例については振り返りを行い、大きな事故につながらないようにしている	2.5	3.2	3.6	ここ数年でかなり充実してきた。事故が起きてから対応するのではなく、予測する目を育てるために更に取り組みを強化したい。	・大きな事故にならないようにヒヤリハットの事例は報告、共有することが大事だと思います。地震はいつ来るかわかりません。どんな状態でも対応できるよう時間を変えての訓練も必要。 ・頭での理解だけでなく突地によって体験することが重要だと思いますのでよろしくお願ひします。 ・子供は大人の予測のつかない行動や反応をする存在。小学校でも、「まさかこんなことか？」と思われる事例が「最悪」を常に想定することの大切さを再認識しています。 ・今後も子供たちの安心安全を第一に取り組んでください。お願いいたします。 ・他園の話や聞くこと、こぼしはしっかりやってくれていると思う。訓練は小さな子供でするので繰り返しやってほしいと思います。 ・徒歩通園のコースをより安全な道にしてくれ子供たちが事故に合わないよう変えたり、集合場所を変えたりよく考えてくれていると思います。ただ朝子どもたちが歩いている横を急いでいる車が猛スピードで通るのがぞっとする。裏道なので速度が早すぎて見るだけで怖い。
	②安全点検、検食、訓練等は適正に実施対応し、安全意識・防災意識を高めている	3.2	3.2	3.4	計画倒れになってしまった部分もある。安全意識をもって、訓練回数を更に増やしていきたい。	
7. 研修と研究	①遊びと生活の専門性(職務の専門性)を高め、知識や技能を身につけるよう研修している	3.1	3	2.9	意識しているものの、コロナ禍の影響もあり外部研修の機会が極めて限られてしまった。園内研修で保育の具体をもとに研修を進めたい。	・すべてにおいて前回より評価が下がっているの で、研究に対する意識を高めることが大事だと思 います。 ・一般的に今後の理解を期待します。 ・コロナ禍でネットを使った様々な研修や会議が 移動なしで受けられるようになった点は今後も活用 していただきたいです。 ・今までに経験したことの無い状況が続く大人も すぐ戸惑うと思います。今に合ったやり方を増 やしコロナ禍だからできないのではなくコロナ禍 だからこうもできるに変えていけたらいいですよ ね!!
	②日々の実践を見合い検討・反省・評価を加え、教育・保育の質の向上に繋げている	3.1	3.4	3	互いの保育実践を見合い、研修する機会が効果的で、重要な場面であると意識されている。育成の方向性をもって、園内研の充実を図りたい。	
	③自分の教育・保育の在り方や悩みについて、同僚の教職員や上司等と話し合っている	3.4	3.2	3.1	学び合っている実態が把握できた。保育教諭、看護師、事務職…それぞれその道のプロだという意識を大切に、互いに学び合う土壌を大切にしたい。	
	④専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動などにも関心を持っている	3.1	3	2.9	80%の職員は「もっている」と回答。自らの人間的な幅を広め深めるために、こういったことを重要視する土壌を育てていきたい。	

#### <こども園の教育・保育をより充実していくための御提言>

- ・発表会の際の被り物などオリジナリティがあってよいと思うが、園児へのプレゼントが前提になっている。布製のものなど、その後継続して使えるものが多い。こういったものの活用も前向きに考えていったらどうか。
- ・小学校での学級編成を見通して、年長が二人担任で34人編成で、それぞれの仕事分担があってよい面もあったものの、6台の机、製作物の保管など物的にも無理だと感じられることが多かった。従来的人数編成がよい。
- ・こども園であるので、基本的に「働く保護者」によりそった対応をしていきたい。大切な我が子を預けたい園が理想である。バス送迎の導入などもありか。
- ・様々な活動に対し、「今までやってきたから」ではなく、何のためにやるのかということ再度確認していきたい。また、本園の特色、大切にしていることを再確認し、共通理解する必要がある。それがはっきりすることで行事や活動の取捨選択ができ、効果的な教育保育につながっていくと思う。
- ・個別支援が必要な子が増えている。対応の工夫、指導者の増員などを考えてほしい。
- ・2号保育の午後の対応について、預かり保育と同じで良いのか、具体的な対応、職員の問題など改善することが必要だと感じる。

#### <コロナ禍での教育・保育の御提言>

- ・行事を見直せた。学年別に運営、リモートで実施などし、保護者を分けて参観の機会を確保する方法がよい。子どもたちも集中して取り組めたし、時間的にも空間的にもゆったり参観できたため、保護者の反応もよかった。
- ・異年齢の交流、集会でのマナーが十分にできなかった。大切にしたい部分でもある。どんな工夫をしたらよいか、改善する行事、残せる行事など検討をしていきたい。
- ・手洗い、うがい、マスク、給食配膳、給食の席、製作など様々な場面における安全・衛生管理の方法。

#### <業務の改善・効率化への提言>

- ・パステルを有効活用し、出席簿管理、個人管理、連絡等ペーパーレス化を進めたい。
- ・なぜこれを行っているのか、理由もなく続けている活動はないだろうか。立ち止まって考えることが必要。
- ・正規職員の持ち帰りの多さ。仕事の軽減を。午後、職員室で教材作りなどができると助かる。ランド専門の職員が必要になるが。
- ・始業時間前に出勤して「自発的に」行う仕事の精選・廃止。終礼・朝礼の開始時刻。
- ・保護者へのパステルメールが多すぎる。精選し、簡潔に伝えないとかえって読んでもらえなくて伝わらなくなる。
- ・徒歩通園は体力づくりには効果的だが、バス導入という選択肢もある。職員・保護者の負担軽減にもなるし、園のCMIにもなる可能性がある。
- ・外部との連絡を考えると、職員全員がPCと園ドメインをもつことが仕事の効率化につながる。会議でも活用できる。